

「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第 80 回

『新時代の形成力 ～ 世界をリードする ～』

筆者は、最近、医学生、看護学生、医療福祉関係の学生に、『病理学総論』の講義を行う機会が与えられている。その時、『がん（病理）学』では次のように語る。『がん学の新時代の形成力を求めて：20世紀はがんを作る時代であった。日本は化学発がんの創始国である。21世紀はがんを遅らせる研究で、再び世界をリードする時である。「がんの原因論」を明確し、「がんの制御」の根拠を示し、「がんの進展阻止」の実際を示す。』

発がん (carcinogenesis) の 5 か条

Cell type specific carcinogenesis

Stage specific carcinogenesis

Strain difference in carcinogenesis

Federal headship carcinogenesis

Rehabilitation of cancer cell

発がんの連盟的首位性 (Federal headship carcinogenesis)

Genotype, Phenotype, Dramatype : 『適時診断と的確治療：初期条件がある範囲にあると、初期の変異が経時的変化とともに分子の相互作用によって、様々に拡大し、将来予測が不可能になる。これは初期のわずかな変異で大きな効果が出ることを意味する。非平衡状態にあり外部と相互作用する開かれた複雑系では、初期状態 (Genotype) が同じでも、外部から、意識的に適時に介入すれば、ある特異点 (Phenotype) で分岐し多様性のある制御 (Dramatype) が可能になるはずである。病気は Dramatype なる故に、予防、治療が成立する。』

2021年10月23日の『柏がん哲学外来面談9周年記念特別講演』（柏地域医療連携センターに於いて）で、2021年10月24日の、『新渡戸稲造「武士道」/内村鑑三「代表的日本人」読書会14周年記念・東久留米がん哲学外来メディカルカ

フェ 13周年記念・東村山がん哲学外来メディカル・カフェ 7周年記念』での『秋の贈り物 樋野興夫 講演会』] (東久留米成美教育文化会館に於いて) でも上記を語る。「Intentional Delay (故意に遅らせる)」によって「天寿がんの実現」(画像)が、人類の進む方向であろう。そして120歳で死ぬ。



